

～ 大学と地域を結ぶ『架け橋』～

**BRIDGE**
 特定非営利活動法人  
**Y U V E C**  
 (ユーベック)

会報 (通巻) 第 37 号

## 巻頭言 「AI に思う」

理事長 山川 隆

ここ数年 AI が脚光を浴びています。よこはま高度実装技術コンソーシアム(YJC)は昨年 11 月の実装技術セミナーで AI を取り上げました。AI には効率化や正確化、技術の汎用化といった点で大きな期待が寄せられる一方で、AI によって駆逐される職業があると懸念されています。しかし、長いスパンで考えると、なくなる職業が出てくることは大いに結構ともいえるでしょう。もし、人類の歴史上なくなる職業がなかったら、人類はその可能性の大半をいまだに肉体労働に注ぎ込んでいたということになります。

問題はある職種がなくなることそのものではなく、その変化を社会に実装するときの方法です。人間一人一人の尊厳と権利を前提にすれば、セイフティーネットを用意し、職を失うことがあってもその人が自分の可能性を用いて再び社会に有意な貢献をする道が用意されるべきです。

一方、AI を駆使すれば、本当に何でも出来てしまうのか。何でも AI と言ってしまえばもてはやされるという風潮はさておき、AI でも出来ないことが多々あると思います。私は AI に出来ないことの一つは不満を持つことではないかと思えます。人間ならば、「出来た、出来た」と喜んだ後、「出来た」状態に慣れてくると、次の欲望が出てきて、不満を持ちます。これが次の課題設定に繋がります。

もう一つ AI に出来ないこと、それは不合理な決断をすることです。AI は過去データや経験則に基づいて成功の確率、お勧めの方法などを出すことは出来るでしょうが、分析結果や経験則に基づかない不合理な決断をすることは出来ません。政策、経営戦略、技術基盤の選択などに関していうと、経験則ばかりでは時代の変換

点を先取りすることが出来ないことが多々あります。不合理な決断が出来るのは、リスクや責任を負うことが出来る人間の特権かもしれません。

さて、2020 年は YUVEC にとって正念場の年です。3 年を経過して「空冷・高温動作パワーモジュール用実装材料開発支援プロジェクト」(KAMOME A-PJ) が計画の期間を終了し、この 5 年間 NEDO の資金で行ってきた「先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座」も終了します。すでに昨年からの準備として KAMOME A-PJ II が検討されてきました。また、NEDO のパワエレ技術体系教育講座の後継として YUVEC が事業主体となって横浜パワーエレクトロニクスカレッジ (YPEC) の事業の準備を進めてきました。幸いなことに両事業とも「価値あり」とご評価いただき、参加企業に手を挙げていただいて少なくとも現時点で新しい事業を開始する態勢を組めそうな状況になってきました。

今年 1 年会員の皆様、関係者の皆様の一層のお力添えを頂戴してこの正念場を乗り切っていけたらと考えております。どうぞ協力のほどよろしくお願い申し上げます。



### 会報 (No.37) 目次

- (1 ページ) 巻頭言 (山川隆理事長)
- (2 ページ) KAMOME A-PJ 活動報告
- (3 ページ) 「NEDO パワエレ」報告
- (4 ページ) 「実装技術セミナー」報告・「実装スクール」予告
- (5 ページ) MDH プロジェクト活動報告
- (6~7 ページ) 連載:今さら聞けない入門講座 第 8 回  
「5G 時代のロボット技術」
- (8 ページ) 連載:研究室紹介 第 7 回  
丸尾昭二(大学院工学研究院教授)研究室
- (9 ページ) 連載:会員探訪 第 15 回  
味の素ファインテクノ株式会社
- (10 ページ) 巻末言<山崎会長>